

インマヌエル中目黒キリスト教会

2012年5月13日 聖日礼拝

エペソ書連講⑪

「神の家族」

エペソ人への手紙
2章14-22節

竿代照夫 牧師



聖書朗読

新約聖書

エペソ人への手紙

2章 14-22節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp343～ / 第三版の聖書はp375～

- 14 キリストこそ私たちの平和であり、
二つのものを一つにし、隔ての壁を
打ちこわし、
- 15 ご自分の肉において、敵意を廃棄さ
れた方です。敵意とは、さまざまの
規定から成り立っている戒めの律法
なのです。このことは、二つのもの
をご自身において新しいひとりの人
に造り上げて、平和を実現するため
であり、

16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

17 それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。

- 18 私たちは、このキリストによって、
両者とともに一つの御霊において、
父のみもとに近づくことができるの
です。
- 19 こういうわけで、あなたがたは、
もはや他国人でも寄留者でもなく、
今は聖徒たちと同じ国民であり、
神の家族なのです。

- 20 あなたがたは使徒と預言者という
土台の上に建てられており、
キリスト・イエスご自身がその礎石
です。
- 21 この方にあって、組み合わされた
建物の全体が成長し、主にある
聖なる宮となるのであり、
- 22 このキリストにあって、あなたがた
もともに建てられ、御霊によって
神の御住まいとなるのです。

説教

エペソ書連講⑪

「神の家族」

エペソ人への手紙
2章14-22節

竿代照夫 牧師



主テキスト：

「あなたがたは、もはや他国人でも
寄留者でもなく、
今は聖徒たちと同じ国民であり、
神の家族なのです。」

(エペソ 2 : 19)

はじめに：（前回のまとめ）

キリストの齎した平和（14節）

- 垂直方向：神と人
- 水平方向：人與人

（特にイスラエルと異邦人）

1. 神に近づけられた 異邦人とイスラエル (17節)

- 「あなたがた」 = 異邦人
- 「近くにいた人たち」 = イスラエル人
- キリストはその双方に
平和の福音を伝えた

2. 両者が神に近づく（18節）

- キリストの贖いによって
- 内住の御霊によって
- 共通の父に近づく

3. 神の家族になる (19節)

- 異邦人は（時間的には）
後発だったが、
同じ家族の一員となった
- 教会では、お互いの違いが
尊敬され、一つの絆で結ばれる
- 「差別」は、福音の真理への
挑戦である

4. 教会は成長する神殿に 譬えられる

(20－22節)

おわりに：

神の家族とされた光栄を

感謝しよう